

六月一日 学校長芝田徹心は日本諸学振興委員会昭和十四年度芸術学部臨時委員を嘱託される。

同月二日 佐々木卓、佐々木一郎は生徒野営演習につき同日習志野へ出張を命ぜられる。

同月二十六日 集団勤労作業実地調査のため、佐々木卓、高橋吉雄、北浦大介、宮本純一は府下三鷹村へ出張。

同月二十八日 同じく佐々木卓、北浦大介、宮本純一、佐藤重吉、高橋吉雄は府下調布町上石原へ出張。

七月三日 集団勤労作業実施に関する事務打合わせのため佐々木卓、北浦大介、佐藤重吉は三鷹村へ出張。

同月十八日 内藤春治は興亜青年勤労報国際隊満州派遣学生指導教官として出発。

八月十九日 講師石橋犀水の中国旅行(私費)願ひ許可される。

九月十三日 職員中より常岡文亀、南薫造、田辺至、小林万吾、朝倉文夫、北村西望、羽下修三、香取秀真、山崎覚太郎、松田権六は第三回文部省美術展覧会審査員に任命される。

同月二十三日 教授岡田三郎助(油画科主任)死去する。

十月五日 龍居松之助は建築科の日本庭園に関する講義(毎週二時間、十回)を臨時嘱託される。

同月十日 本校生徒海事訓練講習会参加のため、高橋吉雄は静岡県県および神奈川県へ十月十二日より二日間出張を命ぜられる。

同月十二日 教授藤島武二は油画科主任を命ぜられる。

同月二十五日 矢崎好幸は臨時セメント美術教室設備に関する事務を嘱託される。

同月 生徒野営演習のため野中宇八(十月二十四日より二日間)、豊田朝一郎(同)、瀬谷義広(十月二十四日、同月二十六日から二日間)は習志野へ出張を命ぜられる。

同月 北浦大介は学事視察のため朝鮮へ出張を命ぜられる(李家美術館長葛城末治の依頼による)。

十一月六日 助教授野口六三は教授に任命される(翌七日依願免本官)。

同月 講師小場恒吉は朝鮮総督府宝物古蹟名勝天然記念物保存会第五回総会に出席。

十二月 本校生徒が海事訓練講習会に参加して十月十二日潜行艇母艦迅鯨に乗り込んだ際、同艦長に講演を依頼。その記念として興相武筆油画ほか一点を同艦に贈呈したため、興相に謝儀として本校より四十円を贈与。

昭和三十四年三月二十四日、第四十八回卒業証書授与式が行われ、同日より三日間、校内で卒業制作品陳列会が開かれた。左記はその記録文書の抜粋である。

② 卒業式

第四十八回卒業証書授与式次第 (三月二十四日 午前十四時)

一、新卒業生入場著席 (第一講堂北口ヨリ出入 鐘)

二、職員、参列舊卒業生著席 (第二講堂東口ヨリ出入 鐘)

三、來賓著席 (第三講堂東口ヨリ出入 鐘)

四、宮城遙拜、靖國神社遙拜、出征將士ノ武運長久ヲ禱ル

五、校歌 (一同起立)

六、學校長式辭

七、卒業證書及賞品授與

八、學校長告辭 (卒業生前後敬禮)

九、文部大臣祝辭 (卒業生前後敬禮)

十、卒業生總代答辭

十一、式終了挨拶

十二、來賓、職員、舊卒業生、新卒業生順次退場

附

一、退場後來賓、舊卒業生ハ休憩所ニテ休憩ノ事

二、退場後職員、新卒業生ハ直ニ寫眞場へ集合ノ事

三、式ノ前後ニ於テ卒業生製作品隨意觀覽

卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	二二	〇	〇	二二
油畫科	三四	〇	二	三六
彫刻科	一六	〇	〇	一六
塑造部	一六	〇	〇	一六
木彫部	四	〇	〇	四
圖案部	一〇	〇	〇	一〇
彫金部	五	〇	〇	五
工藝科	二	〇	〇	二
鍛金部	二	〇	〇	二
鑄金部	七	〇	〇	七
漆工部	五	〇	〇	五
建築科	六	〇	〇	六

圖畫師範科……………一七……………〇……………〇……………一七

合 計……………一二七……………〇……………二……………一二九

卒業生姓名卒業製作目錄 (席次いろは順)

日本畫科

荷揚 本科 猪飼 俊一

樹子 同 今村 弘二

馬 同 池澤 賢

閑日 同 六郎田 繁男

伊豆の海 同 濱田 清治

或る驛 同 西村 純一

茶房のひとゝぎ 同 岡部 篤

バクラの森 同 小野 具定

冬の朝 同 尾山 直樹

街 同 若井善三郎

海 同 景浦 宏

船渠の晨 同 吉川 孟

錢湯 同 田川 獎

溫舍 同 小池平四郎

冬 同 寺田 弘

斜陽 同 三谷 一馬

南總の海 同 三宅 秀雄

芝浦 同 宮本 光

うへの原 同 白井 包夫

同 關谷 正明

南豆風景 油畫科
坐像 自畫像
坐像 本科
刺繡 同
裸婦 同
臺灣婦人 同
坐像 同
椅子によれる 同
坐像 同
刺繡 同
青衣 同
坐像 同
波濤 同
坐像 同
裸婦 同
人物 同
草上の裸婦 同
坐像 同
對象 同
コスチューム 同
少女像 同

同 杉浦忠一郎
同 市瀬 文夫
同 岩井 滋郎
同 石田 道尙
同 西村 愿定
同 西尾 善積
同 大塚 陸
同 大矢 正
同 荻 太郎
同 渡邊 武夫
同 笠井 忠郎
同 金子眞次郎
同 上崎順一郎
同 神澤 雄六
同 米本 一郎
同 田中 武久
同 高田 知明
同 高見澤藤次
同 中川 幸永
同 永田 鐵雄
同 生田目 明
同 村山 正吉
同 上野 維信

アトリエにて 同 倉澤 義男
室内 同 藤沼 朝保
窓際坐像 同 藤江理三郎
裸體 同 小林 久
對話 同 遠藤 健郎
裸婦 同 手島守之輔
讀書 同 佐田 勝
坐像 同 佐久間 修
神の童子 同 岸本 快造
裸婦 同 徐 鎮 達
椅子に倚る少女 同 守屋 千之
坐像 同 特別學生 唐 國 卿
坐像 同 須賀 通雄
裸婦 同 楊 佳 福

彫刻科
塑造部
亡友Wへの供華、詩人B像 本科 井手 則雄
沐 浴(ゆあみ) 同 尹 承 旭
若き生命 同 坂東 文夫
十九の乙女 同 原田新八郎
大陸を望む 同 細川 順
女 同 川瀬 勝藏

川西治男遺作品
川西治男ハ今回卒業スベキ處本事業ニ於テ應召昭和十三年四月十九日山東省驪縣附近ノ戰鬪ニ於テ名譽ノ戰死ヲ遂ゲタルモノニ付特ニ陳列ス

父の像、婦人
若い女
母と子
女
立像習作
婦人像エチュード
造ツタ足
少女
少女
立女
首像
木彫部
刈り入れの朝
布を纏へる女
コスチューム
踊子
工藝科
圖案部
令嬢室の室内裝飾
忠靈塔
裝飾畫 (A休憩室、B食堂、C喫茶室)
竹を主體とせる工藝圖案各種
紙器包裝圖案
ポスターに於ける表現の一考察
服飾とそのマスカン (早春服飾)

同 鷹野 忠一
同 高澤 七郎
同 舟越 保武
同 昆野 恒
同 後藤 一彦
同 明石 順吉
同 櫻井 光
同 佐藤 忠良
同 金景 承
同 森本 清水
本科 伊勢 孝志
同 横山 文夫
同 瀧 誠
同 村山 清光

壁面に於ける宣傳裝飾 (各種試案)
壁面裝飾を中心とせるサロンの一試案
光の形成
彫金部
飾 棚
航空港サロン室内裝飾 (飛行ト型態)
壁 飾 (花ト天女)
飾 壺
電氣掛時計
鍍金部
銀製ペンギン鳥置物、銀製氷山華瓶、鐵製花盛
旅客飛行機室内裝飾
鑄金部
壁飾 (木兎)、青銅花筒
壁飾「四季に寄す」
壺
水 盤「豊潤」
庭園の水盤「花」
習 作
置 物「駱駝」、皿
漆工部
手 管
小 管 (鄙ノ水車)
壁面裝飾 (試作)

同 駒井 和郎
同 三輪 智一
同 鈴木 庄三
本科 太田 光雄
同 田中 芳郎
同 齋藤 銈一
同 北原 士
同 菅 省美
本科 荻原 富雄
同 田澤 清美
本科 伊坂四郎人
同 服部 茂夫
同 井上 芳則
同 田中 利一
同 染川鐵之助
同 山中 勇
同 北村 一郎
本科 西橋 貞一
同 友田 昌敏
同 吉田 丈夫

スクリーン(海)
飾 宮(獅子ト花)

建築科

小學校試案

工業博覽會建築展覽會場

演劇學校

セツトルメント計畫

黃浦江岸ニ建ツ海員俱樂部

日本人俱樂部

師範科

平常成績品(師範科に於ては卒業製作を行はず)
習 作(油畫)

同 石河 彦男
同 伴 道雄
同 峠原 敏夫
同 長 一雄
同 大沼 一彦
同 大島 勳
同 渡邊 安友
同 佛像と少女(日本畫)
同 二人の娘(同)
習 作(油畫)

同 梅田 章
同 眞木 宜武
同 卷島 友治
同 小守林 宇吉
同 佐藤 辰雄

同 辻 光典

同 淡川 眞義

本科 伊東 進一

同 橋本 正直

同 上野 隆

同 大住龍太郎

同 山本 甚作

同 小淵二三男

同 月島風景(日本畫)
習 作(油畫)

其他 圖畫、手工成績品等

③ 昭和十四年度入学者

四月一日入学

日本画科子科

伊藤 善男 宮城

遠山 金弥 東京

岡部 敏也 山形

武田 勘七郎 千葉

成田 尚武 岡山

村永 定幸 鹿児島

梅沢 利治 東京

山田 勝治 愛知

松岡 敏行 山口

古川 国司 鹿児島

池田 富久三郎 東京

伊沢 洋三 栃木

石井 精三 岡山

橋本 茂三 東京

佐々木節雄

清水 一郎

志津 輝雄

鈴木 堅司

寺尾 信男 新潟

斎藤 忠夫 新潟

三枝 茂雄 山梨

佐々木 五郎 新潟

三戸 了男 東京

庄司 一男 東京

信太 昌一 秋田

稗田 一穂 和歌山

関泰 祐三 東京

菅野 陽太郎 東京

新延 輝雄 広島

藤間 清雄 神奈川

李海 晟二 朝鮮

越智 雄二 愛媛